

## 第2節 計画策定の趣旨

本計画は、前節に述べた本県における環境の現況と展望を踏まえ、宮城県新長期総合計画に掲げる「快適な県土環境の形成」を実現するために、その施策の一環として策定するものであり、快適な県土環境——望ましい環境の形成を通じ「真の豊かさ」を追求しようとするものである。

「真の豊かさ」とは、物質的な豊かさと精神的な豊かさ、量的な豊かさと質的な豊かさだが、それぞれ調和のとれた形で共存する豊かさであり、したがって県土環境における望ましい環境とは、徒らに一方に偏することなく調和のとれた環境であり、人間の生存にとってゆとりと安らぎのある環境でなければならない。

大気、水、大地、植生などの環境資源は、人間の生存のために欠くことのできないものであるが、無限、無尽蔵に存在するものではない。本来環境が持つ受容能力を超過して収支のバランスを損ねるような無秩序な利用があってはならない。

本県の県土環境は、昭和30年代半ばから続いた高度経済成長の中であって、一時、このバランスを失することもあったが、県民一体となった努力が実を結び、現状においては概して良好な状態を保持している。祖先から引き継いだこの貴重な資産をわれわれは徒らに浪費してはならない。と同時に、「真の豊かさ」をこの環境の中に求めていかなければならない。その意味では、この貴重な資産の活用も必要なことであり各種の地域開発を、環境管理という名において、すべて抑制しようとするものであってはならない。

このためには、真に調和のとれた環境づくりのための指針を樹てる必要があり、本計画はその一里塚となるものである。

汚染されない青い空や海、緑濃い山、「Blue」で表現されるこれらの環境の形成は、県民共通の願望である。清らかな水の流れ、さわやかな大気、静穏なたたずまい、「Clean」で表現されるこれらの環境の形成もまた、県民共通の願望である。この勝れた環境の中で求める快適さ「Amenity」の実現こそ本計画策定の目的とするところである。

「Amenity」、「Blue」、「Clean」で表象される本計画を、これらの頭文字をとって、ABC計画と名づけ、調和のある住み良い県土環境の形成に寄与させていこうとするものである。

## 第3節 計画の性格

本計画は、宮城県新長期総合計画の指向する「新しいふるさとづくり」の基本方向に沿って策